

ZENBUTSU

全仏



No.
544

仏暦2551年11月
[2008年]



お寺の本堂で民族衣装を身につけ仏前結婚式が執り行われる(ベトナム) 撮影 田村 仁氏

目次

- 第24回世界仏教徒会議日本大会特集 ③
- 第24回世界仏教徒会議日本大会に関する記者会見開催
- 加盟団体をゆく 第20回 全日本仏教青年会
- 部落開放研究第42回全国集会開催
- 「救援基金」収支報告
- 賛助会員入会者一覧

第二十四回世界仏教徒会議日本大会特集
開催地・浅草の歴史と文化
（浅草寺を中心として）
③

世界仏教徒会議日本大会特集の第三回は、開催地浅草の象徴であります浅草寺の清水谷孝尚聖観音宗管長（本会副会長）にお話を伺いました。



清水谷 孝尚 聖観音宗管長
 （本会副会長）

―本堂落慶五十周年を迎える浅草寺の歴史と文化についてお聞かせ下さい。
 伝存する「浅草寺縁起」により、まずと、推古天皇三十六年（六二八）に隅田川（宮戸川ともいう）に漁に出た檜前浜成・竹成が投網

の中に仏像を発見した。それを土師中知が拝し、聖観世音菩薩の尊像であることを知り、奉安お仕えしたと伝えております。この三名の方はのちに三社権現（現在の浅草神社）として祀られ、氏神として信仰されております。

日本の有名な寺院では、高僧あるいは時の権力者により開創されている場合が多いのですが、全く名も知れぬ庶民の開祖ということで、観音さまのご霊徳と共に親しみ易い霊場として多くの人の参詣をみております。

浅草寺の文献上の初見は『吾妻鏡』であり、源頼朝が養和元年（一一八一）に鎌倉の若宮八幡宮造営のため浅草から大工を招いたという記事が、また建久三年（一一九二）頼朝が施主となった後白河法皇の四十九日忌の法要に三人の僧が招かれた事により、浅草寺が名の知れた寺院となっていた事が判



WFB大会に向け、仲見世通りの全ての商店に仏旗が吊されている

ります。

しかし、今日の状態を示すよう

になったのは、天正十八年（一五〇〇）天海大僧正の進言により、浅草寺を祈願所と定め、寺領五百石を与えられてからであります。徳川幕府は江戸入城のはじめより宗教による民心の安和を強く思考していたと申せましょう。元和二年（一六一六）家康が死去され、その二年後に境内に「東照宮」の造営が許されたのは、將軍家との特別な関係を示すものであり、浅草寺の榮譽と隆盛を予約する事となりました。

貞享二年（一六八五）浅草寺の別当が五代將軍綱吉の忌避に触

れ、それ以降、浅草寺は上野の寛永寺の支配をうけることになりましたが、この事により江戸の民衆はもとより参詣衆庶の関心を深めることとなりました。

承応三年（一六五四）浅草寺は、はじめて「御開帳」を行なっているが、民衆の浅草寺に寄せる関心は『半日閑話』（一七六九）が綴る「楊枝店・小芝居・辻講釈・大道芸―曲ごま・居合抜き・手妻―などの妙芸」を楽しむ境内にも向けられました。

また文化十年松平冠山編の『浅草寺志』には境内の末社・小祠あわせて百数十をあげており、「江戸ッ子」の現実的な日常生活と結びつき大きな魅力を示しております。天保三年（一八三二）寺門静軒の『江戸繁昌記』が綴る「都下香火の地、浅草寺を以って第一となす」の繁栄を示し、その伝統が現在に及んでいるのです。地域と一体となった寺院と言うことができるといえます。

―WFB世界仏教徒会議日本大会が浅草で開催される事に関して、

お話をお聞かせ下さい。

今回の第二十四回世界仏教徒会議が浅草の地で開催され、浅草寺では「世界平和法要」を厳修させて頂きます。これは浅草寺にとっても大変名誉な事と感激しております。しかも、浅草寺も本堂再建五十周年、全日本仏教会も財団創立五十周年という、大変大きな節目を同時に迎えることとなり、何かのご縁を感じずにはいられません。

仲見世商店街には、吊り旗の国旗が全ての商店に吊るされており、修学旅行生や海外からの観光客を含む、全ての浅草寺を訪れた方がご覧になります。世界仏教徒連盟(WFB)で制定された、世界共通の仏旗が、民衆に更に認知される契機となれば喜ばしいことと思います。

世界仏教徒会議には、各国代表の僧侶の方々が集結いたします。浅草寺は、正確には計測できませんが、一説によると年間三千万人の参拝者がお参りすると言われております。観音堂の外陣に「仏身円満無背相・十方来人皆対面」

という「聯^{れん}」が掲げられておりますが、観音さまのご誓願を表すもので、どこからお参りされる方でも「慈悲」のお心を以って接して下さる事を示すものです。

日本の仏教の特色である、寺院と一般民衆との融和の完成系が浅草寺には具現しており、各国代表の僧侶には是非浅草の地でそれを感じて頂けたら、と考えております。生きているお寺である「浅草寺」を感じて頂きたい、と思えます。

―五十周年を迎えて浅草地域と一体となった浅草寺が、今後どのような活動をお考えかお聞かせ下さい。

浅草寺は、「民衆の心の中に観音堂を立てよう」という考えのもと、各種布教活動を進めております。現在、各寺院や各宗派で仏教講座は盛んに開催されるようになりましたが、浅草寺では「浅草寺仏教文化講座」を昭和三十年より、一度も中断することなく六百回以上を開催し、現在も続いております。



寄贈及び配布されている冊子

する率直な思いをお聞かせ下さい。

私は過去にも二度ほど副会長にご指名を頂いておりますが、今期、図らずも再び副会長に任命頂きました。

私の持論では、仏教はそう頻繁に変わってはいけない、仏様の教えを堅持するのが一番大切な事であり、全日本仏教会も最終的には日本仏教の伝統を守るとい、基本に根本を置く事が大切と思えます。

また、その講座内容も、有志の方が無料で印刷・製本して下さっており、六千冊をご寄贈頂き、配布させて頂いております。ここでも民衆に支えられ、民衆と一体となった教化活動を行っております。他、育英会・福祉会館・病院・幼稚園・子ども図書館・ボーイスカウト活動等を行っております。

仏教は、対社会的に生きたものである必要がありますので、時局に合わせた活動は必要と思えます。ですが、それはあくまでも観音信仰に根拠を置いたものであり、というのが不変の考え方です。仏様の教えや伝統を堅持していくという基本を今後もしっかり守っていききたいと思います。

―全日本仏教会の目的・事業に関

仏教学者の中村元博士は、「仏教は慈悲」である、とおっしゃっております。慈悲というのは言うならば温かい心であります。日本天台宗の開祖、伝教大師の「己を忘れ他を利用するは慈悲の極みなり」という言葉に代表されるように、仏教徒はこの心を忘れず、仏法の興隆という共通目標に向かって一緒に進んでゆくことが肝要であり、これからも変わらない目標であると言えるでしょう。

(談)

第二十四回世界仏教徒会議日本大会 各シンポジウムの概要について

第二十四回世界仏教徒会議日本大会では、十一月十五日に仏教と社会の関わりについての一般参加可能な七つのシンポジウムが開催されます。各パネルの概要を紹介致します。

第一部十一月十五日 十二時

①平和と共生

おのおのが直面している問題（南北朝鮮問題、ビルマの民主化、スリランカの民族対立）に対して忌憚のない議論を交わしたいと思えます。

解決の糸口を探るに当たっては、仏教で説く四諦（苦・集・滅・道）を用いながら、武力を使つた紛争解決という選択ではなく、ダルマ（法）に基づく解決方法について探ります。

②仏教者による社会の開発（かいほつ） 私たちに何ができるのか？ 貧困、環境、人権、平和……。二十一世紀後も開発に起因する地球規模課題は深刻さを増

可能性について、有意義な議論が行われるものと期待しています。

④ジェンダーイコールな仏教をめざして

社会問題としてのジェンダーと同時に、仏教界内のジェンダーを考える必要があります。女性の出家は問題が多く、日本においては寺に住んでいる僧侶とその家族の問題もあります。本大会では、活動している女性仏教者の経験を分かち合いながら、これまで埋もれてきた女性仏教者の声を世界の仏教者たちに届け、女性が仏教と共に生きやすい社会作りへの一歩となることを願います。

第二部 十四時半

⑤自殺という社会問題に仏教者は何ができるか

「自殺」という亡くなり方をする人が現代社会では多くなっています。この問題に仏教者がどのように関わり、何をすることができると検討します。

自殺の問題に関わっている仏教者からその実践事例を聞き、その活動を始めるようになったきっかけや思いを語ってもらい、いま私

たちができることは何かを一緒に考えてみたいと思えます。

⑥仏教による人材育成

慈悲と智慧を根本とする仏教の教えは、「人」の根幹を形成する青年期にとっても大きな影響を及ぼし、さらに地球上の全ての未来に影響を与えます。今、さまざまな形で人材育成に寄与している仏教の実情を仏教伝来の軌跡をたどりながら検証し、平和で明るい社会の実現における仏教の役割を探ります。

⑦環境危機の具体策への仏教的対応

仏教徒は、よく仏教の教えが環境に優しいと主張しますが、その反面、環境危機を解決しようとする努力が不足しているのではないのでしょうか？

パネルの参加者たちは、危機の解決にはあまり時間がない、という意見で皆一致しています。今必要なのは具体策です。パネリストたちには、実践者としての豊富な経験を活かし、仏教的対応としての環境危機の具体策を熱意を持って語ってもらいます。

「第二十四回世界仏教徒日本大会」に関する記者会見開催

「第二十四回世界仏教徒会議日本大会」の詳細を発表するための記者会見が、九月二十九日、東京千代田区の日本プレスセンターにて開催された。記者会見には松長有慶会長、清水谷孝尚副会長、東條仁哲副会長、若槻繁隆副会長、西村輝成副会長、豊原大成理事長らが列席した。



報道陣に挨拶を行う
松長有慶会長（写真中央）

第二十四回世界仏教徒会議は、十一月十四日～十七日、浅草ビューホテル及び浅草寺を中心に開催されるが、日本での開催は三十年

ぶりとなる。

世界仏教徒会議とは、世界仏教徒連盟（WFB）に加盟している百四十の地域センターが、二～三年に一度、最高議決機関として開催している会議であり、組織と活動状況の報告及び見直しと活動計画の立案がなされてきた。

日本唯一のWFB加盟センターである全日本仏教会は、今回の大会において例年の会議の開催はもちろんのこと、仏教と社会の関わりについて一般参加者も参加可能な七つのシンポジウムを開催し、新しい大会のモデルケースを提示する。（関連記事四面、及び本誌五四三号を参照）

松長会長は挨拶において、「大乘仏教には生きとしいけるものが皆つながっているという思想がある。仏教は異教徒との対立が非常に少なく、これは誇るべきこと。仏教の深い思想を確認し、二十一世紀を生きるメッセージを世界に

発信したい」と述べた。

清水谷副会長は、「寺院と地域が円満に暮らしているところを、浅草の地で世界の仏教者の方々に体験していただきたい」と述べた。（関連記事二・三頁に掲載）

東條副会長は、「今は社会全体がとてむぎくしゃくした感じがあり、その分大会の運営は大変だと思ふ」と述べた。

豊原理事長は、「今大会が、自分だけを善、と考えることのない仏教の和の思想を広げる契機になれば、と考えている」と述べた。

各列席者の挨拶の後、記者団からの質問に対しての質疑応答が行われた。「今まで開催された世界大会と比べての、新しい点や変わった点を聞かせてほしい」という質問に対しては、戸松義晴WFB執行役員が「今までのWFB大会は、会議以外の部分では、高名な僧侶に法話をして頂いたり、ペーパーを読んだり声明を出したり、といった事で終わっていた。前回の台湾大会でWFB憲章が改正され、地域・世界の危機的状況への

積極的な関与が明記された。これを受け、今回はこれだけの規模の一般参加可能なシンポジウムの開催、映画上映といった事はWFB大会始まって以来の新しい試みである。シンポジウムで問題を共有し、解決策の実践・具現するための手立てに到るまで踏み込んで討議を行いたい。今回の日本大会を新しいWFBの出発点とし、仏教徒が世界に向けて活動する契機としたい」と回答した。

その他、WFBの組織、あらまし、開催地の選択について、大会全体の規模等に関する質問等が寄せられ、回答がされた。

また、今大会は国際的に通例となつているように、各食事の場ではお酒を一切出さない事が伝えられた。

閉会にあたり、清水谷副会長が「今大会への御理解を、大会以前に得られるのは大変ありがたい事。今後もし協力をお願い致します」と、来場の記者たちに御礼の挨拶を述べ閉会となった。

加盟団体をゆく

《第二十回》全日本仏教青年会

今回の「加盟団体をゆく」は全

日本仏教青年会（以下全日仏青と略記）、五條良知理事長・北條祐英顧問の両師にお話を伺いました。全日仏青は、青年仏教徒相互の友好と連帯を目的として仏教青年会活動を展開している団体（会員数約一万二千人）です。

また、JYBA (ALL JAPAN YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION) としてWFBY世界仏教青年連盟に加盟し、その日本セン



五條良知理事長（写真左）
北條祐英顧問（写真右）

ターを担っております。

―仏教会の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

継続的に行っている活動のひとつとして救援があります。

全日仏青加盟の各団体も、様々な形で救援活動を行っておりますが、それになかなか参加できない地域の小さな青年会等も存在します。その橋渡しのな、ネットワークを作る活動を考えております。

阪神・淡路大震災の折から積極的に救援活動を行っており、毎年神戸JTBという団体を中心として、一月十六・十七日にご数年、毎年法要を営ませて頂いております。

特に、十三回忌からは鷹取教会（キリスト教）の神父様と交流を持たせて頂き、教会でお経をお唱えさせて頂いております。

スリランカの津波被害では、メンバーが現地に入り、物資の救援などを、実際に行うことができました。

また、奈良でシルクロード博が開催された折に、東大寺をお借りして、全日仏青・南都二六会・全国曹洞宗青年会が中心となり「千僧法要」千七百人の僧侶が集まったの平和祈願法要を行わせて頂いております。今年は、十一月十四・十六日の世界仏教徒会議日本大会の全日程終了後に奈良に移動し、WFBY日本大会慶讃・全日本仏教青年会三十周年記念事業として、世界平和祈願「奈良千僧法要・大護摩供厳修」を厳修させて頂きます。

回数を重ねるうちに、より一層しっかりとした形での法要を行う、という気運が高まり、四月二十六日を「青年仏教徒の日」と定め、東大寺に於いて毎年法要を行わせて頂いております。本堂脇には、アシヨカピラ（アシヨカピラー）を安置しての法要をさせて頂きました。その仏前においてチベットの関する平和問題に関する声



アシヨカピラー前での
声明発表

明「日本の青年仏教徒の願い」を出させて頂きました。

去年の十一月の「全日本仏教徒会議」神奈川大会に於いては、ダライラマ殿下の講演会が開催されましたが、その際に全日仏青が提案した分科会でもチベット僧侶に参加頂きました。そうした関わりの中での青年仏教徒の思いを世間に対して出していく、社会に目を向けて行くことが、全日仏青のありようだと考えております。

財団創立三十周年という大きな節目を迎えるにあたり、今後もうした社会的活動を行ってゆきたい、と考えております。

―現在の仏教界と今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

日本の仏教界は色々な素晴らし

い点があり、培ってきた文化・伝統も素晴らしいと思います。しかし、時として様々ながらみにつまずき、宗派を超えた活動を難しくしている部分もあるように思います。

全日本仏教会が五十年。全日仏青が三十年という月日を費やして、諸先輩が様々なものを作り上げて来たのだと今まさに実感しています。実働体であったり、サロンであったりその形は様々ですが、それらが合わさって近年ようやくしがらみを脱して、色々な活動ができるようになってきたのではないかと感じています。

全日仏青は、出向理事を通じて加盟団体との情報交換がしやすく、加盟各団体に成果をフィードバックしやすい、という利点があると思います。全日仏青に来てくれる方々は、ここで得た経験でスキルアップをして、各宗派・各団体にその成果を持ち帰って頂く。そして、それぞれの団体や宗派、地域にその活動の輪を広げていく。これこそが、言うならば全一仏教運動の一つの姿になるのではない

か、と思います。

―昨今の様々な社会問題について、感じていらつしやる思いをお聞かせ下さい。

我々青年仏教徒は、社会に対する思いは持っているか?と問われれば、各人持っていると思えます。しかし、それぞれ各人が個人の活動でそれを表面に出したりなど、宗派の活動の中ではなかなか出せない時もあるのではないかと思えます。

我々は、立場的にネットワークが軽いと思います。若者の思いを積極的に出してゆき、仏教界の在り方を社会に問いたい、と考えております。

その一例として、二年に一度全国大会を開催しております。六年前の京都大会では、葬儀に関する問題について社会に問いたい部分がありましたので、いわゆるアンチテーゼとして「葬式仏教は死なない」というテーマで開催し、その内容を出版いたしました。

宗派の枠を踏み出した活動を通じて、社会に対して様々な発信を

行つてゆくことが肝要と思えます。

―(財)全日本仏教会へのご要望やご意見がありましたらお聞かせ下さい。

全日仏青は、二年に一度事務局が総入れ替えになってしまふ為、事業の継続性や維持が課題になっています。

全国大会を行い、その中で社会に対する声明を毎回出していないですが、大会で出した声明が生かされているか、次の大会に生かされるか、あるいは次の大会では、また全く別の活動をしていたり、別の声明を出していたりする事も珍しくありません。

時事問題に即応する為に仕方の無い部分もあるでしょうが、事業をどう継続していくかが大きな課題だと思えます。

現実問題として、全日仏青が抱えている課題は、全日本仏教会にも通じるものがあるのではないかと思います。五十周年という節目を迎えて、次の五十年に向けての事業の継続、展開など、期待いた

します。また、全日仏青へのご指導もいただきたいと思えます。

全日仏青は、全日本仏教会と親子関係とは言えませんが、WFBYとWFBYの関係があるように、全日本仏教会加盟の他の団体とは関わり方やスタンスが異なっていると思えます。全日本仏教会がWFBY世界大会を十一月十四日から開催致します。同時にWFBYの大会も開催されます。このように、同時に行事が開催される機会も他団体に比べれば多いです。

特に海外との関係に置いては、坂本観泰前理事長のもと、ここ数年は副会長を受けたり、IBYE(国際仏教徒青年交換プログラム)などを実施するなど積極的に関わりを持つようになりました。そうした、全日本仏教会と全日仏青のスタンスの違いを、お互いうまく理解し合い、活用してゆくことが大切なのではないでしょうか。(談)

全日本仏教青年会ホームページ
<http://jyba.jp/index.htm>

部落解放研究第四十二回全国集会開催

社会人権部

部落解放研究第四十二回全国集
会が、宮崎県宮崎市総合体育館を
中心とし、十月三日～五日の三日
間に渡って開催され、四十一都道
府県より約四千七百名が参加し
た。



東国原英夫宮崎県知事も
祝辞を述べた

大会初日の三日、大会開会にあ
たり、主催者及び現地実行委員長
が挨拶を述べた。また、来賓とし
て部落解放同盟組坂繁之中央執行
委員長、宮崎県東国原英夫知事の
挨拶が行われた。
続いて澤井勝奈良女子大学名誉

教授が、『二十世紀初頭の地方
財政の危機、その原因と政策課題
―分権と自治の時代を開く―自治
体、市民、各級議員がなにをすべ
きか』というテーマで記念講演を
行った。

地方財政の現状と課題として
(1) 厳しい財政状況のもと、参加
と協働の新しい仕組みを考える
(2) 財政破綻に立ち向かってグッ
ドガバメントを
という二つをあげ、近代からの
政治の問題、国民の問題を説明し
「第二の近代」としてどのような
ことに取り組んでいけば良いのか
に關し「討議民主主義」という例
を上げ講演を行った。

続いて地元報告として、部落解
放同盟宮崎県連合会の仮谷龍一氏
より、『共に差別をなくす取組み
を』というテーマで報告。氏の幼
少時代からの経験、部落解放に携
わるまでの出来事を通じ、友人か

らの結婚相談など幾多にも亘る苦
労についてを例に上げ、地域の現
状報告がなされた。

翌四日は九つの分科会が開催さ
れた。

分科会のテーマは次の通り。

一. 入門・時事
二. 入門 部落の歴史
三. 狭山再審闘争と司法民主化の
課題

四. 部落差別の実態と糾弾闘争の
課題

五. 人権侵害被害は救済されてい
るか―人権侵害救済の法制度早
期確立へ―

六. 『市民と行政の協働』の視点
から同和行政を考える

七. 拡がる学力格差を克服し、豊
かな学力を育てる学校づくり―
「力ある学校」づくりを

八. 日本の社会保障と福祉のあり
方

九. 意識調査結果から見る啓発の
課題と参加型人権研修

「日向国の被差別部落史」松下
志朗氏（元九州大学）の分科会で
は、日向国の歴史で被差別部落の

人々に対する各藩の待遇が資料に
沿って説明された。

次に、「被差別民の文化・芸能
・産業技術」の分科会で、沖浦和
光氏（桃山学院大学）は、日本文
化の歴史には必ず悪所が関係し、
芸能・産業技術・交通・流通など
が多くの部落民が携わってきたと
の説明がなされた。



会場は多数の来場者で埋まった

各分科会会場はスクール形式で
百名程度しか入れないため、四千
七百名の来場者が溢れかえってい
る一幕も見られた。
翌五日、「宮崎同宗連のとりく
み」等の特別報告がなされ、閉会
となった。

「救援基金」収支報告

(平成二十年四月一日～十月十日)

ミャンマー・サイクロンに対して九百八十四万三千九百六十九円、中国・四川大地震に対して六百五十六万六千七百七十一円が、本会「救援基金」へお寄せ頂きました。尚、指定寄付につきましては、全額を各団体に寄託させて頂きました。

また、八月中旬から続いたモンスーンの影響で、インド・ネパールの国境地域で河川が氾濫し、インドではこの五十年で最大規模の被害が発生、被災者は三百三十万人以上に登っております。この、インド洪水に関しましても、仏教NGOネットワークを通じて、現地のNGO団体へ百万円を寄託致しました。

本会では、今後も救援基金の効果的な活用を行ってまいります。皆様方の一層のご協力をお願い申し上げます。

収入の部

救援募金（指定なし）	22件	¥5,234,343.-	
ミャンマー・サイクロン	41件	¥9,843,969.-	
中国・四川大地震	37件	¥6,566,171.-	
岩手・宮城内陸地震	4件	¥930,000.-	
合計	104件		¥22,574,483.-

支出の部

	寄託額	合計
・ミャンマー・サイクロン寄託先		¥9,843,969.-
WFB世界仏教徒連盟	¥4,000,000.-	
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	¥3,000,000.-	
仏教NGOネットワーク	¥2,843,969.-	
・中国・四川大地震寄託先		¥6,566,171.-
中華人民共和国大使館	¥2,000,000.-	
日本ユニセフ協会	¥1,500,000.-	
仏教NGOネットワーク	¥3,066,171.-	
・岩手・宮城内陸地震寄託先		¥1,000,000.-
日本赤十字社	¥1,000,000.-	
・インド・ビハール州洪水寄託先		¥1,000,000.-
仏教NGOネットワーク	¥1,000,000.-	
合計		¥18,410,140.-

10月10日現在

「救援基金」寄付者一覧

(九月六日～十月十日)

小千谷市仏教会
滋賀県仏教会

(順不同・敬称略)

〔合計 一二二、七五四円〕

ご支援誠にありがとうございます。ま
した。

仏教界を挙げての人的活動の
為、ひきつづきご協力のほど、よ
ろしくお願い申し上げます。

※救援基金の送付先

【郵便振替】

口座番号

00110-9-704834

口座名義 全日本仏教会救援基金

【銀行振込】

中央三井信託銀行 本店営業部

口座番号 0973031

口座名義

財団法人全日本仏教会

全日本仏教会「賛助会員」

入会者一覧

(九月十日～十月十五日)

【団体会員】

株式会社 三州社

株式会社 京念珠 刑部

トップツアー株式会社

近畿日本ツーリスト株式会社

【特別会員】

大本山東福寺 永井慶洲

蓮華院誕生寺 川原英照

(順不同・敬称略)

ご入会誠にありがとうございます。
ました。ひきつづき、更なる皆
様のご入会をお待ちしております。

本会ホームページから賛助会

員要綱・申込書などを閲覧・プ

リントアウトできます。

<http://www.jbf.ne.jp>

全国のご寺院にお願い

個人の入会にあつては、入会
希望者の菩提寺の推薦を頂くこ
とになりました。加盟団体傘下
の各ご寺院の皆様にはご負担を
おかけいたしますが、何卒宜し
くお願い申し上げます。

財団創立五十周年記念事業特別協賛金寄付者名

(九月十日～十月十五日)

保元寺 里見達人・蓮馨寺 糸原恒久
圓珠院 杉谷義純・法蔵院 杜多徳雄
萬福寺 安本利正・羅漢寺 矢萩信顕
川崎大師 大本山 平間寺
会館開発株式会社・有限会社 上信堂
関東三十六不動霊場会・板東札所霊場会
武州路十二支本尊霊場会・宜真高等学校・武蔵野女子学院
ブディストサーチライトセンター 松濤弘道

〔合計 一、六五〇、〇〇〇円〕

(順不同・敬称略)

ご支援ありがとうございました。
更なる皆様のご支援・ご協力を
お待ちしております。

【郵便振替】

口座番号

00130-6-37600

口座名義

財団法人全日本仏教会

【銀行振込】

三井住友銀行 浜松町支店

口座番号

普通 7082913

口座名義

財団法人全日本仏教会

総本山 御用達



像品 授与 具装 仏東 壇貨 仏術 衣古 法古

上田法衣佛具店

〒604-0913 京都市中京区河原町二条西入上ル
電話(075) 221-3348(代表)
フリーダイヤル 0120-07-3348
FAX(075) 221-1858
振替口座 01040-8-254
E-mail: uedahoui@yahoo.co.jp
<http://www.ueda-hoi-butsumo.com/>

事務総局録事

九月(十一〜三十日)

十一日 ▼ 第三回コーディネーター会議

▼ JTB・ICS 打合せ

十二日 ▼ 総務財政審議会より理事長諮問の一部を答申

十六日 ▼ 世界仏教徒会議日本大会に関する打合せのため、会長・理事長来局

十八日 ▼ 浄土真宗本願寺派主催第二十八回全戦没者追悼法要参列(於 国立千鳥ヶ淵墓苑)

二十二日 ▼ ICS 打合せ

二十四日 ▼ 仏教英語プログラム

二十五日 ▼ 全日本仏教青年会集會取材(於 本会会議室)

▼ 無料法律相談室

二十六日 ▼ 局内会議

▼ 世界平和法要関連・浅草地区訪問

二十九日 ▼ 第二十四回世界仏教徒會議日本大会に関する記者会見(於 日本プレスセンター)

▼ ICS 打合せ

三十日 ▼ 厚生労働省人道調査室長

遠藤氏来局

十月(一〜十日)

二日 ▼ 全日本冠婚葬祭互助協会訪問

▼ 全日本葬祭業協同組合連合會訪問

三日 ▼ 日本宗教連盟幹事会出席(於 神社本庁)

▼ 部落解放研究第四十二回国集會参加(於 宮崎 至五日)

四日 ▼ ボーイスカウト説明会出席(於 清光寺)

五日 ▼ 宮崎県仏教連合會取材

六日 ▼ 局内会議

▼ BNN来訪、事務総長インタビュー

七日 ▼ 日本テンブルヴァン訪問

八日 ▼ 仏教英語プログラム

九日 ▼ ICS 打合せ

▼ 世界平和法要に関する打合せ(於 浅草寺)

▼ 無料法律相談室

十日 ▼ 立正大学プンダリーカ磯貝静江教授来局

▼ 浅草寺取材

一枚の切符から 国内・海外 団体参拝旅行まで



本社 団体参拝推進部
〒101-8641
東京都千代田区
神田松永町 19-2
東京近鉄ビル 5F
TEL 03-3255-7953
FAX 03-3255-7630

機関誌『全仏』 広告募集のお知らせ

機関誌『全仏』誌は、月間一萬部発行され、全日本仏教会加盟団体・各地の寺院の方に購読されておりま

す。(年一〇回発行)
広告掲載ご希望の方は、左記全日本仏教会事務総局までお問い合わせ下さい。

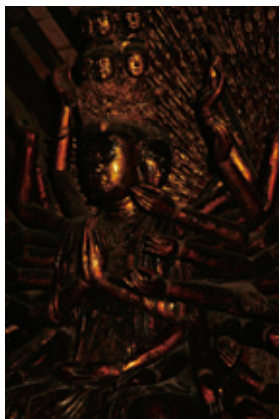
※ 掲載内容により、若干の変更を、願います。ご了承下さい。

全日本仏教会 広報文化部
電話 03-3437-9275
FAX 03-3437-3260
E-mail kouho@jbfne.jp

祈りの世界 ⑦ ベトナム

ベトナムの仏教徒は北伝の中国系大乘仏教を信奉する人々が多く、国民の八割近くは仏教徒である。ベトナム仏教は禪と浄土教が混合した大乘仏教が主流であるが現世利益を求める道教も混じっている。ただ日本の仏教のように特別な宗派はなく、日頃唱えている教典は阿弥陀経が中心であるが、時には法華経や般若心経を唱えることもあり日本人にはとても親しみやすく感じられる。戦時中の仏教勢力は非暴力と反戦を貫き、戦後は社会的弱者である貧者、障害者、孤児などの救済活動をお寺と信徒たちが一丸となって行っている。

(文章及び写真 田村 仁氏)



十一面千手観音像 (15世紀) 国宝

無料法律 相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03(3437)9275へ事前予約の上おいで下さい。



第24回世界仏教徒会議日本大会

The 24th General Conference of the World Fellowship of Buddhists

第15回世界仏教青年会議 第7回世界仏教大学会議

The 15th General Conference of the World Fellowship of Buddhist Youth (WFBY)

The 7th Meeting of the World Buddhist University (WBU)



仏教者の社会問題解決への貢献
Buddhists' Contribution to Resolving Social Problems

期日：仏歴2551(2008)年11月14日(金)～17日(月) Date: November 14 (Fri.)—November 17 (Mon.), B.E.2551(2008)
場所：浅草ビューホテル、金龍山浅草寺 Venue: Asakusa View Hotel, Senso-ji Temple
主催：財団法人 全日本仏教会 Hosted by: Japan Buddhist Federation



WFB & WFBY Song

The Pur-pose of our Fel-low-ship is World-wide Bu-ddhist u-ni-ty,
No ba-rriers or fron-tiers mar, Our sense of close com-muni-ty.
We view the va-rious groups and schools as bran-ches of a mighty tree.
Whose lovely fruits are friendship, peace Com-pa-ssion and tran-quil-li-ty.
Our aims as Buddhists are to make greed, anger and de-lusion cease
and to show active kindness to all beings And strive for u-ni-ver-sal peace.

Composed by M.L. Assanee Pramoj
Arranged by Col. Shuchart Pitaksakorn
Lyriced by Mr. Sujib Punyanubhab and Mr. John Blofeld

WFB & WFBY Song

The purpose of our Fellowship is the World-wide Buddhist unity,
No barriers or frontiers mar Our sense of close community.
We view the various groups and schools as branches of a mighty tree.
Whose lovely fruits are friendship, peace Compassion and tranquility.
Our aims as Buddhists are to make greed, anger,
and delusion cease to show active kindness to all beings
And strive for universal peace.

日本語訳詞
松田 龍紹
磯貝 静江

(WFBソング 歌詞対訳)

私たちの願いは、世界中の仏を信ずる者の心がひとつになること。
私たちの深い絆で結ばれた(仏教)精神は
壁や隔たりをとりのぞき
いろいろなグループや教派も尊樹の枝とする。
そこから生まれた愛すべき果実は友情を育み、平和を願い、
慈悲の心やかく穏やかさを培う。
今、私たち仏教徒がなすべきことは
むさぼりや、いかり、愚かな心を鎮め、
思いやりの心を持って世界平和のために
祈り、行動することである。